SDGs新聞　旭化成ホームズ株式会社

長く住める家のヒミツ

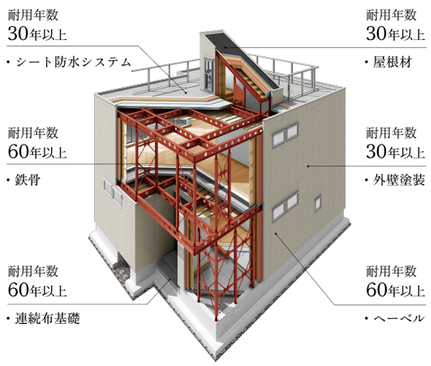
SDGsラジオを読んでみよう！

日本では、建てた家がどれくらいの期間使われているか、知っていますか？
実は、日本の家は、イギリスやアメリカなどの国とくらべて、建ててからこわされるまでの期間が短く、
その長さはおよそ半分だといわれています。
せっかく建てた家を早くこわしてしまうのは、とてももったいないですよね。
そこで、住まいづくりの会社「旭化成ホームズ」は、長く住み続けられる家づくりに取り組んでいます。
地震や台風、火事にも強い家をつくって、手入れや修理を続けて家を守り、
くらし方が変わってもリフォームなどをして、家をいかすことを大切にしています。
また、旭化成ホームズでは、家の点検を60年間、無料で行い、住む人が長くくらし続けられるように支えています。
ものを長く使うことは、今日からでも始められます。みなさんなら、どんなものを大切に使い続けたいですか。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

日本では、家を建ててからこわされるまでの期間が平均で30年ほどといわれています。これに対して、アメリカは約60年、イギリスは約80年と、長い間住み続けられています。イギリスでは古い家ほど「長い歴史がある家」として大切にされ、ずっと受けつがれていくことも多くあります。一方で、日本では新しく建てた家が好まれることが多く、まだ住める家でもこわして建て替えられてしまうことがあります。家は、建てるときにもこわすときにも、たくさんの材料やエネルギーが使われます。資源をむだにしないためにも、家を長く使い続けることが大切です。

画像参照：長く受けつがれるヨーロッパの家のイメージ



そこで、住まいづくりの会社「旭化成ホームズ」は1998年に「ロングライフ宣言」という目標を立て、長い年月が経っても満足して住み続けられる「ロングライフ住宅の実現」に取り組んでいます。ここで大切にしているのが「つくる・まもる・いかす」という考え方です。まず、地震や台風、火事に強い「品質の高い家」をつくり、その家を定期的な点検やメンテナンスで守ります。また、家族の人数やくらし方、住む人が変わってもリフォームなどで住まいをいかし、長く住み続けられるようにしています。さらに、旭化成ホームズでは、60年間無料で住まいの点検を続けるしくみも整えました。こうした取り組みは、「家を大切に長く使うという文化」を広めることにもつながります。そしてそれは、資源をむだにせず、地球の未来を大切に考える社会づくりにもつながっていきます。

画像参照：耐久性能に優れているヘーベルハウスの構造（ヘーベルハウス公式HPより）

キーワード

資源

人のくらしや社会を支えるために使われる、自然のめぐみのことです。家を建てるときやこわすときにも、木や鉄、機械を動かすための燃料などの資源が使われます。

メンテナンス

建物や機械などを長く使うために、点検や修理、手入れをすることです。家も定期的にメンテナンスをすることで、安全で快適に、長く使い続けることができます。

リフォーム

古くなった家を直すなど、より使いやすくするためにつくりかえることです。

対象ゴール

みなさんにできること！

まずは身の回りのものを、長く大切に使ってみましょう。

おさらい

- 日本の家は、イギリスやアメリカなどの国にくらべて、建ててからこわされるまでの期間が短い。
- 「旭化成ホームズ」は「ロングライフ宣言」という目標のもと、長く住み続けられる家づくりに取り組んでいる。
- 家を大切に長く使うことは、資源をむだにしない社会づくりにつながる。

メモ

SDGs ラジオ